

モデル地域での検討結果について

ワークショップ報告会 参加者意見一覧

【開催概要】

日時:2025年2月4日(火) 14:00~15:00

場所:城北タウンセンターいずみ ホール

【参加者意見】

- 議論の結果が良く分かった。少子化が進む中、最適解を見つけていくことは大変だと思うが、ワークショップでは多世代で交流ができたことは良かったと思う。
- PTAとして参加したが、地域の方、学校関係者、保護者等と話し合える機会が少ないため、このような意見交換は良かった。
- この先20年後、このワークショップの内容がどれだけ落とし込めるかが不安な点であり、楽しみな点でもある。
- 最近では地域のコミュニケーションがなく、人との関わりが少ない中で、色々な方が地域の事について話し合う機会ができたことは非常に意味があったと思う。
- ワークショップの目的がはっきりしなかった。また、参加者の人選については再考しても良いのではないか。
- 他地域で開催する時も色々な住民が参加できるように、時間帯や会場の工夫をしてほしい。
- 全てが仮定の話でワークショップが行われ、小中一貫校をどうするかなどははっきりとした話もなかったが、地域のみんなの意見を聞くのがワークショップだと思うので、それについては色々な意見が出たと思う。
- 学校は避難所としても活用されているため、新しい学校を作った時、地域にどのようなメリットがあるかを発表してもらえるとありがたいと思った。
- モデル地域ということで先行して行ったこともあり、論点も多く議論が深まらなかった点もあった。議論の項目を1つか2つに絞って行くと、内容も深まるのではないか。
- ワークショップで出た意見がきちんと今後に反映されるならば、真剣さや具体性も出るのではないかと思う。
- 新しい学校づくりを考えるワークショップということで、初めは教育カリキュラム等についてと思ったが、学校配置を考えるワークショップだった。「学校配置を考えるワークショップ」といった感じで、はっきり記載してくれないとわからない。
- 学校配置を考えるのならば、都市計画や教育カリキュラムにも踏み込んでいく必要があるのではないか。
- 現段階では市のビジョンが確定していない中で行ったため、非常に曖昧な点が多かった。次のワークショップでは10年後、20年後を見通した形で配置案ができていると思うので、その点は少し違ってくるのではないかと思う。

各回の振り返り

第1回

- 多様な参加者がいることで、多様な視点の意見を聞くことができたという意見が多くあった。
- 前半(全体説明／地域の現状／配置案)の情報量が多く、咀嚼しきれないという意見があった。
- 前提(児童生徒数・学級数推計など)や事業そのものの実現可能性などに対して疑問が挙がった。
→インプットや疑問を解消する場を、属性別(保護者／教職員／地域関係者など)に設定し、一定のインプットがされている状態でワークショップなどに入る方がいい。

第2回

- インプットとして、地域の方との対談形式で活動事例などを紹介したのは良かった。
- 2つのグループワークを行ったが、時間がかなり厳しかった。
- ファシリテーターの発表に時間がかかり、実際の議論内容と乖離したまとめになったところもあった。
→グループワークは1回1つとし、各グループの発表はなるべく簡潔にファシリテーターが行った後、参加者にも補足してもらうようにする。

第3回

- 地図を見ながらグループワークを行ったため、イメージがしやすかった。
- スクールバスを出せるかどうか、小中一貫校を本当に導入するのか、という前提条件がなく、仮定の話で議論することに対するフラストレーションを感じる参加者もいた。
→今回は前提や配置案が固まっていない中でのワークショップとなったが、実際には前提条件、配置案ともに根拠を持って説明できる状態とし、それらを参加者にインプットしたうえで行う必要がある。

第4回

- これまで挙がった意見で重要と思うものにシールを貼る、一番良いと思う配置案のところに移動する、という手法は、参加者の考えが見える化しやすかった。
- 最終回と全体のフィードバックを参加者に共有する場や手段が必要。(報告会は、参加者以外を対象としたため、時間带的に参加者は参加しにくかった)
→報告会を実施する場合は、対象、目的、位置づけを明確にする必要がある。

【参加者・形式】

今回の評価

●今回の参加者

- ・ 地域関係者(まちづくり委員会から選出) 11名
- ・ 保護者(各校PTAから推薦) 5名
- ・ 教職員(各学校校長) 6名
- ・ 公募市民(回覧、HPで募集) 2名

- 公募により、保護者世代の方が参加したことは良かった。
- 属性のバランスについて、地域関係者の割合が多すぎたのではないか。
- 学校長への説明タイミングが遅くなり、日程調整等が難しかった。
- 児童・生徒や若者、未就学児の保護者は、結果的に参加しづらい設定となってしまった。
- 他の地域では、各属性の人数が多くなってしまい、参加者の調整が難しくなる懸念がある。

今後に向けて

- 公募市民の参加は、他地域でも継続する。
- 学校長、地域の連合自治会長に、早い段階から主旨や目的を十分に説明し、人選等に関する助言、協力をお願いできるようにする。
- 現役世代(保護者)がより参加しやすい手法、フレームは今後の検討課題。
- 他地域はより広くなるため、参加者が限定される可能性があることから、オープンハウス等の手法を取り入れることにより、広くインプットや意見を募る場を設定する必要がある。
- 児童・生徒、若者の参加は、テーマを絞ってスポット的に実施する方が参加しやすいのではないか。

例:「新しい学校」のイメージをイラストにする、学校が楽しくなるアイディア(ハード、ソフト問わず)を話し合う、など

(事例) オープンハウスについて

【開催場所】

- ・ 総合事務所(1Fフロア)
- ・ 公民館(1Fフロア)
- ・ 近隣のスーパーマーケット(正面スペース)

【開催期間・時間】

- ・ 開催期間:計4回(金曜日(2回)、土曜日、日曜日)
- ・ 開催時間:10:00~15:00

【内容】

- ・ ワークショップの成果物(模造紙等)をパネルで掲載
- ・ 立ち寄った方にワークショップの成果をまとめたチラシ(A3両面、二つ折り)を配布
- ・ 興味を持っていただいた方にはパネルに誘導して内容の説明

【写真】



(事例) 小学校・中学校のワークショップ実施事例 (気仙沼市)

【テーマ】

「自分もみんなも幸せだと感じる学校について考えよう」

【参加者・参加人数】

小学生:市内全小学校の5・6年生 685名

中学校:市内全中学校の全校生徒 848名

【意見の聞き方・手法】

小学生

学校に集まり、「こんな授業だといいな」、「こんな学校行事にしたいな」、「こんな学校生活だとやる気が出るな」の3つの視点から、意見を出し合う。

中学生

「学習・授業」、「学校行事・部活動等の活動や生活」、「小中高と続く学校生活」の3つの視点から、中学生が期待する学校について、グーグルフォームから意見をもらう。

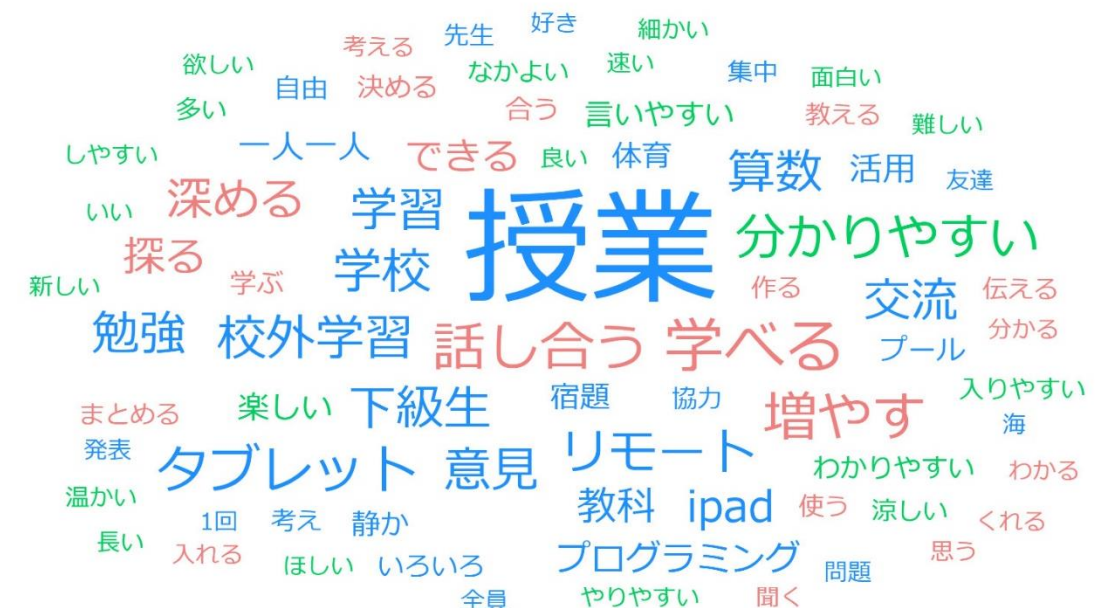
※いただいた意見は、AIテキストマイニングによる分析を行い公表しています。

【写真】



【集計結果】

小学生:【視点1】こんな授業だといいな



【日時・場所】

今回の評価

第1回: 9月 2日(月)19:00~21:00
[小田原アリーナ 大会議室]

第2回:10月 4日(金)19:00~21:00
[小田原アリーナ 研修室]

第3回:10月29日(火)19:00~21:00
[城北タウンセンター いずみホール]

第4回:12月16日(月)19:00~20:45
[小田原アリーナ 研修室]

- 平日の19時から2時間のワークショップは長いのではないかな。
- 教職員は、平日の夜間実施は参加しづらい一方、仕事をしている方は平日夜間の方が比較的参加しやすい。
- 実施場所が与える印象は大きい(広さ、明るさ、アクセスなど)
- 参加者への連絡手段が人によって異なった(メール、郵送など)。

今後に向けて

- 1回90分程度を目安とし、内容を盛り込み過ぎないようにする。
- 運営手法(説明会／ワークショップ)、参加者の属性などに応じて、日時・場所は慎重に設定する。
- 連絡手段を一元化するなどして、確実に連絡できる体制を整える。

【運営①】

今回の評価

- 事前に提示した情報(インプット)
 - ・児童生徒数・学級数の将来推計
 - ・学校施設の老朽化状況
 - ・現状の通学路及び一番遠い児童生徒の通学距離と通学時間
 - ・地域にある公共施設の配置状況
 - ・地域の学校配置のイメージ(3+1ケース)

- 主旨・目的、ワークショップの目標設定が共有しきれなかった。
- インプット情報の説明時間が少なく、資料についても、公表できない情報が多いことから配布を行わなかったため、情報を咀嚼しきれないという意見があった。
- 事務局の意図が明確に伝えられず、参加者の質問に対して「現在検討中」という回答をする場面があった。(小中一貫校の取り扱い等)
- 参加者の属性によって関心のある項目や観点、持っている知識・情報量が異なり、多様な意見が挙がった一方、議論が散漫になる場面もあった。

今後に向けて

- 最初に、主旨・目的、目標設定を明確に伝え、共有する。
- インプットについては、参加者の属性別に別途設定し、知識・情報量が同じレベルとなるようにする。
- 資料は、毎回配布または卓上に用意し、参加者が都度確認できるようにする。
- 関連する市の施策(都市計画、防災など)については、必要に応じて参加者に説明する。
- 配置案を含め、事務局として考えや方向性とそれに関連する前提情報等について、明確に答えられるようにする。

【運営②】

今回の評価

●今回の参加者

- ・ 第1回:現状のインプットと再編ケースの提示
- ・ 第2回:学校と地域の関係
- ・ 第3回:新しい学校の通学環境
- ・ 第4回:4つのケースについて
- ・ ワークショップ報告会

- 「地域」、「通学」は第1回で関心の高いテーマであったため、有意義な議論ができた。
- ファシリテーター(学生)の知識・情報量に限りがあるため、まとめた内容が実際の議論とズレがあったという意見があった。
- 1回で2つのグループを行った回は、終了時間がぎりぎりになってしまった。
- 報告会は、参加者以外を想定して、平日午後を設定したが、第4回終了後に告知した際、参加者が参加できないことへの疑問等が挙がった。

今後に向けて

- 最初から参加者全員で集まるのではなく、属性別に集まって情報のインプットや意見交換の場を設ける。
- ファシリテーターへ、地域の基礎情報の事前のインプットが必要。
- グループワークは1回で1つとし、時間を長めにする。
- グループワークのテーマとして、「地域」、「通学」は他地域でも関心が高いと見込まれることから、優先的に設定する。
- 報告会について、対象(参加者か、参加者以外か)、目的、内容を明確にし、必要に応じて複数回実施すること等も検討する。

【全体】

今回の評価

- 多様な属性の参加者が集まったことで、多様な視点を皆で共有することができた。
- 配置イメージに明確に反対する(統廃合そのものに反対)という意見はほとんど挙がらず、建設的な議論となった。
- ファシリテーターが参加することで、多くの意見を引き出すことができた。
- 参加者の興味・関心が、事務局の想定と若干異なっていることが把握できた。
- 前提条件や配置案が確定していない段階でのワークショップとなったため、全体／各回の意図が参加者に伝わり切らず、参加者の中でフラストレーションやもやもや感が残ってしまった。
- 時間軸が「10年後」、「20年後」のため、参加者＝当事者とならない人が多く、意図が伝わりきっていないことと合わせて、表面的な議論となった場面も多かった。
- ワークショップの前段として、インプットの時間を多く設け、知識・情報量のレベルをある程度揃える必要がある。

今後に向けて

- 事務局として、前提条件や配置案を対外的に明確に説明できる状態とし、関連する背景情報やバックデータを積み上げたうえで実施する必要がある。
- ワークショップを行う前に、属性別にインプットと意見交換(疑問点の解消)の場を設定し、主旨や意図を丁寧に説明、共有する。
- 日時、場所、テーマ設定は、事前の意見交換等を通してそれぞれの意向や興味・関心を把握し、それらを踏まえて慎重に設定する。
- 教育、学校以外の論点が挙がることも想定されるため、関係部局にも参加いただき、「オール小田原」として対応できるようにする。